

滋賀県の地震

令和8年(2026年)5月

目次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	6
(2)概況	-----	6

3 地震一口メモ

緊急地震速報に活用する海底地震観測点について

～「南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)沿岸システム」の活用～

-----	7
-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

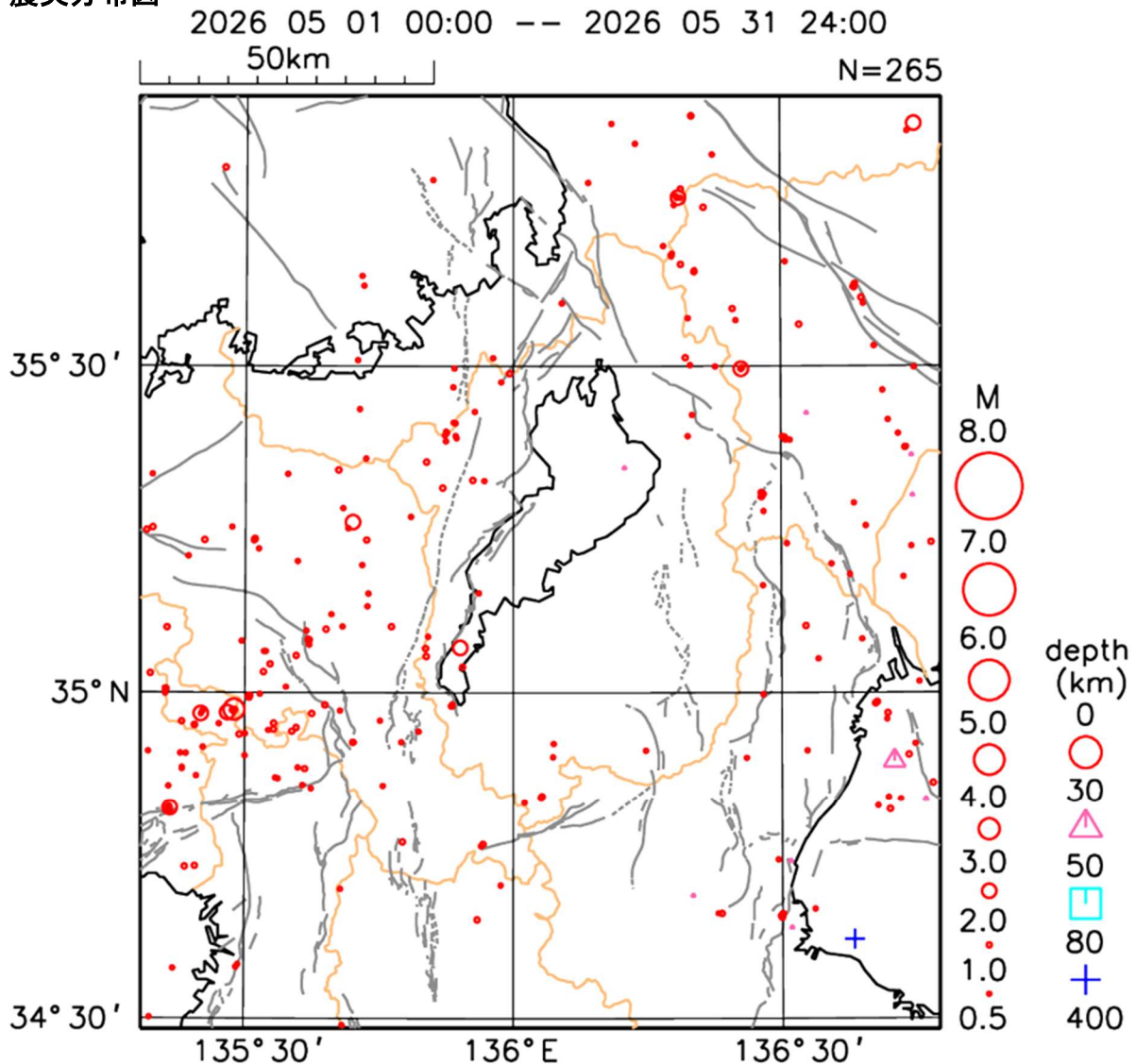
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和8年5月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。
 シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模 (マグニチュード)」、形状により「震源の深さ (km)」を表現しています。マグニチュード (M) とシンボルマークの大小、震源の深さ (depth) とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。
 図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度 (実線部>破線部) を表しています。
 滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています (最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。
 震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

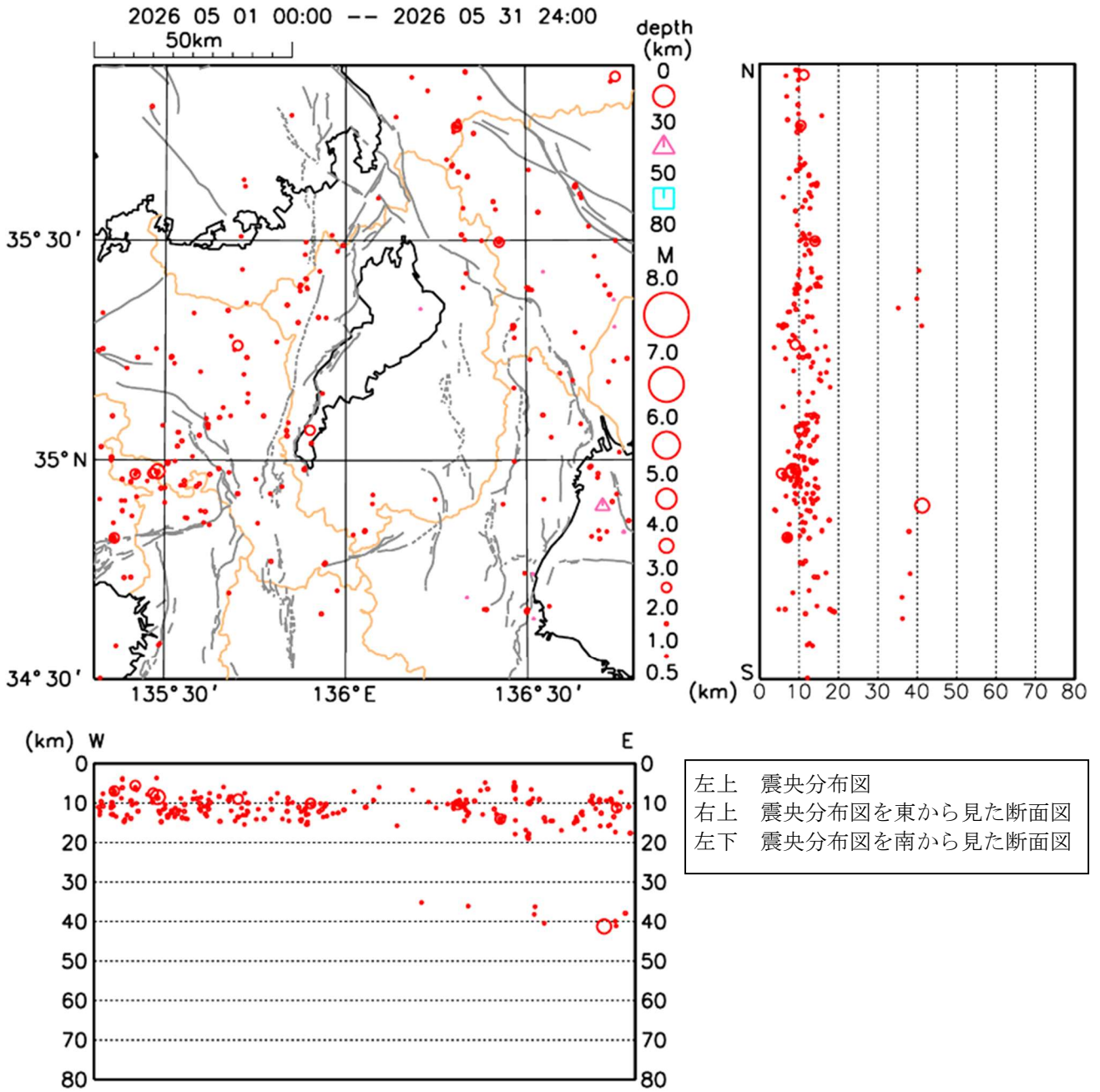
5月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は11回 (前月9回) でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした (前月1回)。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

2日18時28分 和歌山県南部 (図の範囲外) の地震 (M5.8) : 長浜市、近江八幡市、草津市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市で震度3、他12市町で震度2や震度1

24日07時06分 岐阜県飛騨地方 (図の範囲外) の地震 (M4.1) : 近江八幡市、東近江市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
------	------	----	----	----	---------

各地の震度（滋賀県内のみ掲載）

2026年05月02日18時28分 和歌山県南部 34°03.7' N 135°33.4' E 65km M5.8

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 3：長浜市西浅井町大浦*、**近江八幡市桜宮町**、草津市草津*、栗東市安養寺*
野洲市西河原*、湖南市石部中央西庁舎*、**甲賀市水口町**、甲賀市信楽町*

震度 2：**彦根市城町**、彦根市西今町*、長浜市公園町*、長浜市内保町*
長浜市木之本町木之本*、長浜市余呉町中之郷*、長浜市八幡東町*、長浜市宮部町*
長浜市難波町*、豊郷町石畑*、多賀町多賀*、高島市今津町日置前*
高島市マキノ町*、高島市勝野*、高島市安曇川町*、高島市今津町弘川*
米原市長岡*、米原市米原*、愛荘町安孫子*、愛荘町愛知川*、**大津市御陵町**
大津市南小松、大津市国分*、大津市南郷*、大津市真野*、近江八幡市出町*
近江八幡市安土町下豊浦*、守山市石田町*、滋賀日野町河原*、竜王町小口*
野洲市小篠原*、湖南市中央森北公園*、湖南市中央東庁舎*、甲賀市甲賀町大久保*
甲賀市土山町*、甲賀市甲南町*、甲賀市甲賀町相模*、**東近江市君ヶ畑町**
東近江市上二俣町*、東近江市池庄町*、東近江市市子川原町*、東近江市山上町*
東近江市妹町*、東近江市五個荘小幡町*、東近江市躰光寺町*
東近江市八日市緑町*

震度 1：長浜市湖北町速水*、甲良町在土*、高島市朽木柏*、高島市朽木市場*
高島市新旭町*、大津市木戸消防分団*

2026年05月24日07時06分 岐阜県飛騨地方 35°52.2' N 137°20.8' E 11km M4.1

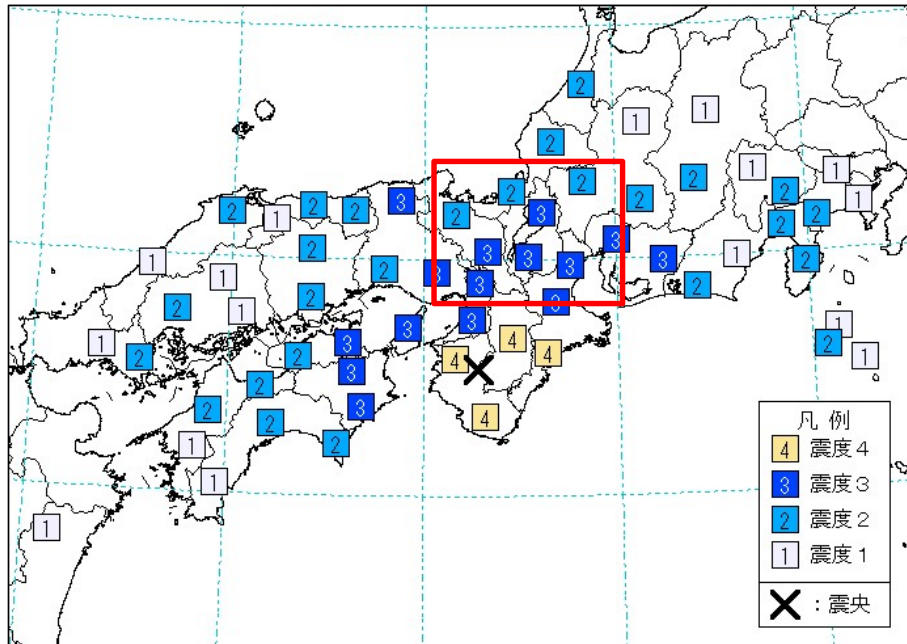
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1：**近江八幡市桜宮町**、東近江市躰光寺町*

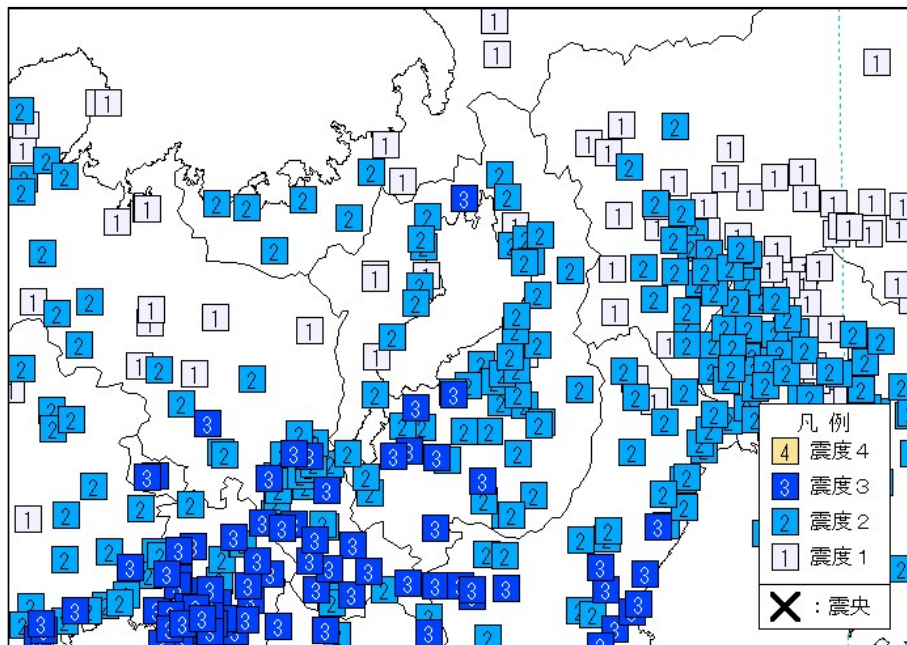
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2026年5月2日 18時28分 和歌山県南部 (M5.8)

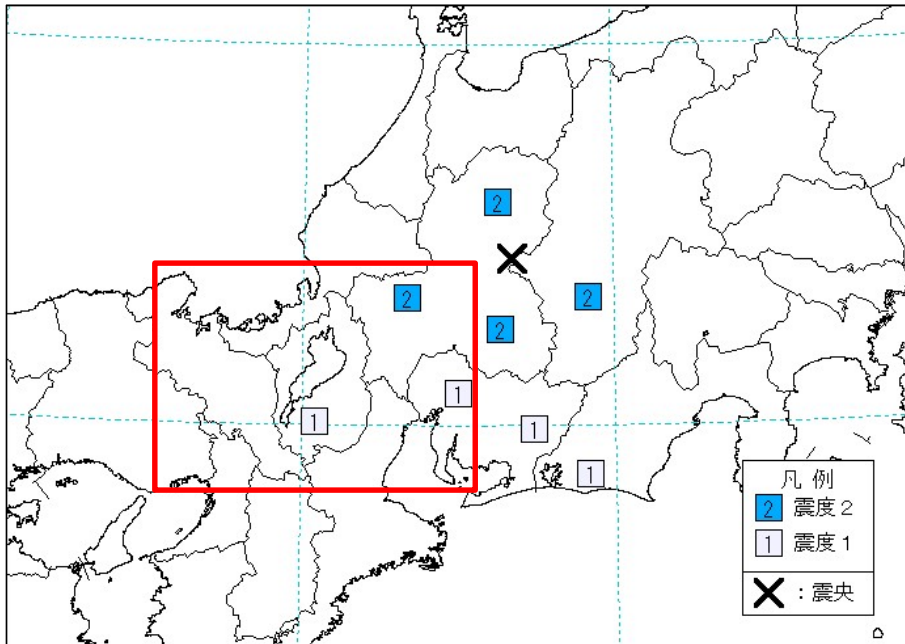


各地域の震度

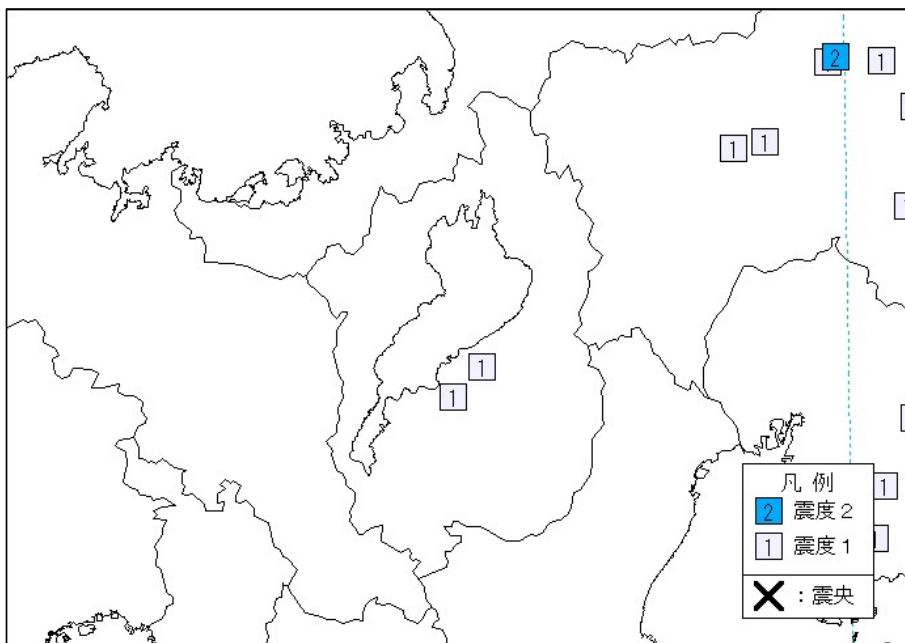


各観測点の震度 (各地域の震度の赤矩形領域内)

2026年5月24日07時06分 岐阜県飛騨地方 (M4.1)



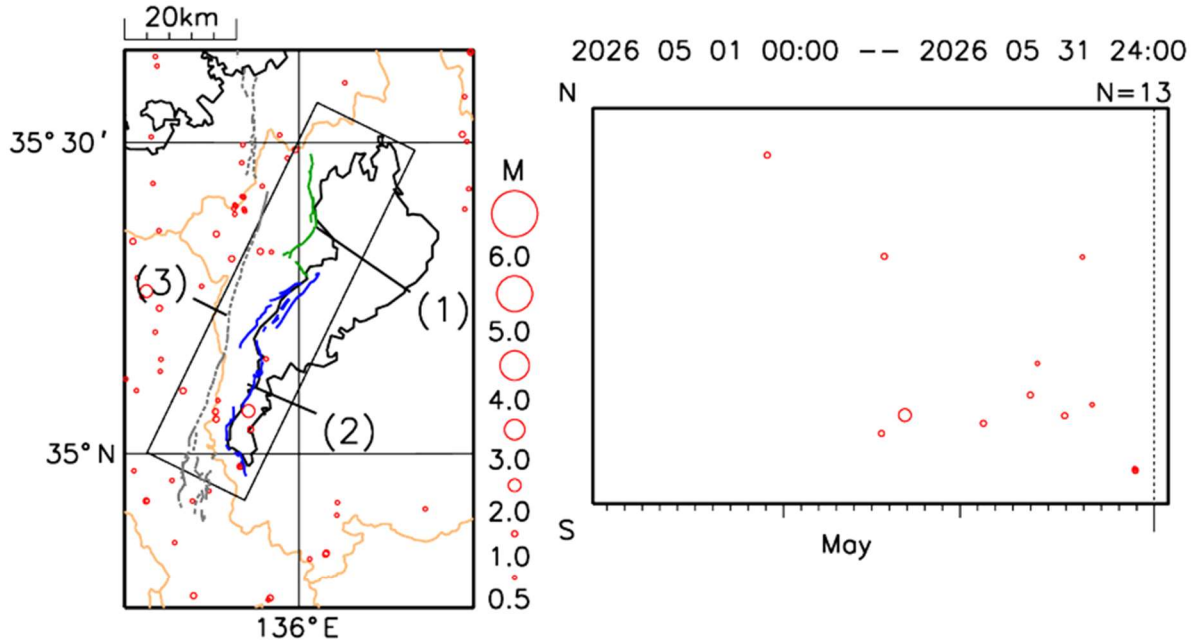
各地域の震度



各観測点の震度 (各地域の震度の赤矩形領域内)

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和8年5月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ30kmまでの地震)



(上) 震央分布図

深さ30km以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から天津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約59kmで、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部ではM7.1程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率は1~3%と推定されます。

断層帯南部ではM7.5程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ0%と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は2026年1月1日。)

(2) 概況

5月に震央分布図中の矩形領域内で観測されたM2.0以上の地震は1回(前月0回)で、同領域内の地震で震度1以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

緊急地震速報に活用する海底地震観測点について ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の活用～

地震が発生すると、揺れが波（地震波）となって地中を伝わっていきます。地震波は主に2種類あり、速いスピード（秒速約7km）で伝わるP波とそれよりもスピードは遅い（秒速約4km）が揺れは強いS波があります。

緊急地震速報は、地震発生後、震源付近でP波を検知した地震計から送られてきたデータを解析し、震源とマグニチュードを推定します。推定した震源とマグニチュードを基に、各地点の震度と長周期地震動階級を予測します（図1）。S波がまだ伝わっていない所には、S波が伝わってくる前にお知らせすることが可能となります。また、震源やマグニチュードの推定は行わず、地震計で観測された揺れの強さから直接震度を予測するPLUM法※（図2）も用いています。

（※Propagation of Local Undamped Motionの略。プラム法。）

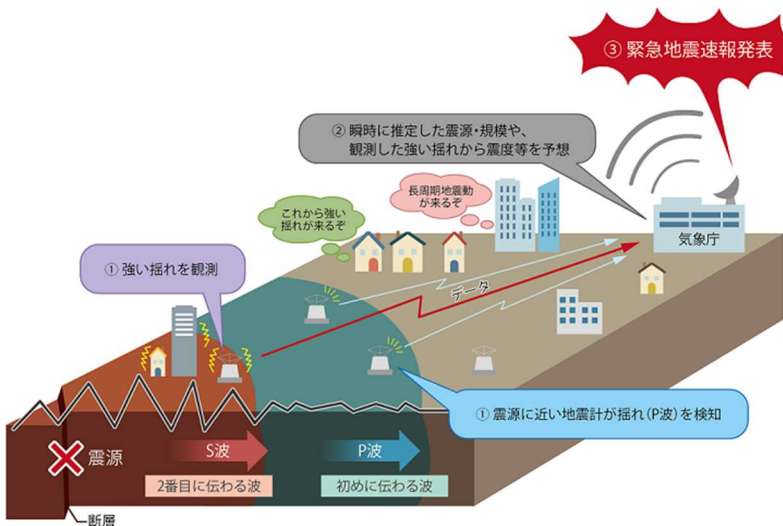


図1 震源を推定して震度・長周期地震動階級を予測

PLUM法

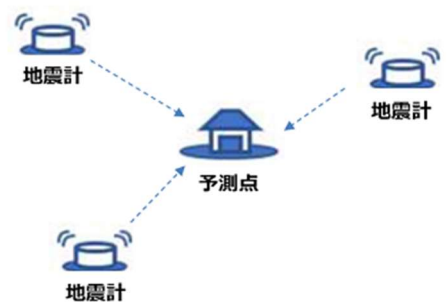


図2 揺れから揺れを予測（PLUM法）

気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/eew/shikumi/shikumi.html>) より

PLUM法は、「予測地点の付近の地震計で強い揺れが観測されたら、その予測地点でも同じように強く揺れる」という考えに従った予測手法であり、予測してから揺れがくるまでの時間的猶予は短くなりますが、広い震源域をもつ巨大地震であっても精度よく震度を予測することができます。

気象庁では、緊急地震速報の発表の迅速化や精度向上を図るために、国立研究開発法人防災科学技術研究所が整備した「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net※）」の地震観測データの活用を進めてきました。

（※N-net:Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis）

N-netは令和6年7月に整備が完了した「沖合システム」（図3緑の逆三角形）と令和7年6月に整備が完了した「沿岸システム」（図3橙の逆三角形）から構成されます。「沖合システム」については、令和7年10月15日に緊急地震速報への活用を開始しています。

「沿岸システム」については、令和8年3月12日に緊急地震速報への活用を開始しました。

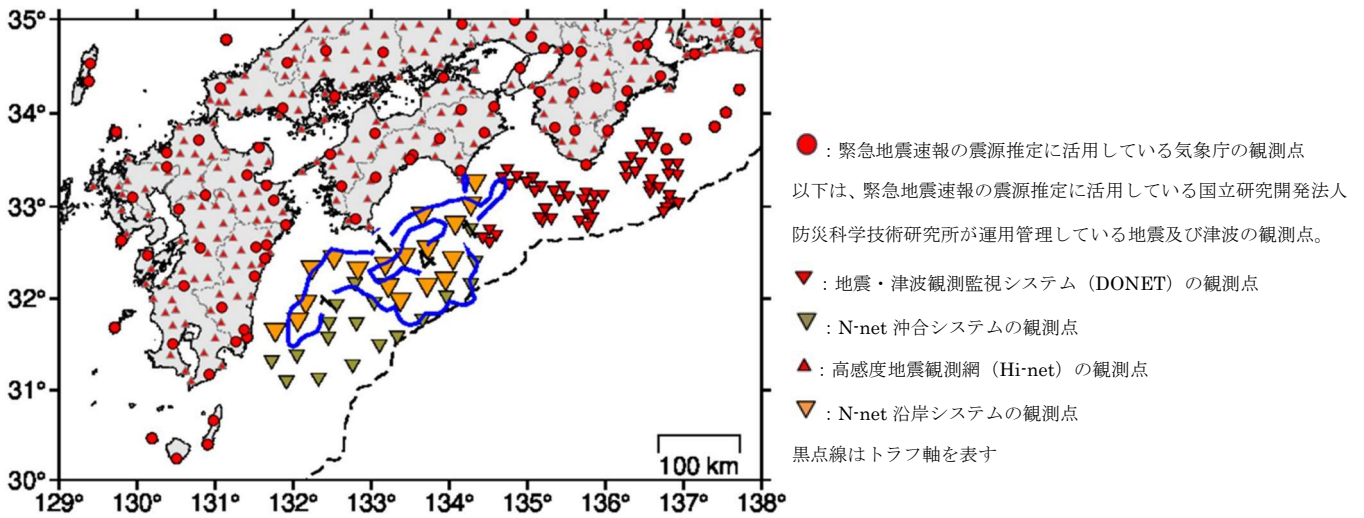


図3 「N-net 沿岸システム」の観測データの活用による緊急地震速報（警報）の迅速化

気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/06b/20260306_N-net.pdf) より

図3の青の等値線の値は、その地点で地震が発生した場合に、緊急地震速報（警報）の発表が、「N-net 沿岸システム」の観測データの活用を開始する前と比較してどの程度早まるかを計算した理論上の最大値（秒）を示しており、最大で6秒程度早まることが期待されます。

緊急地震速報は、情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまでの時間が数秒から数十秒しかありません。周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保してください。

気象庁HP 緊急地震速報のしくみ

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/ew/shikumi/shikumi.html>

気象庁HP 緊急地震速報等に活用する海底地震観測点の追加について

https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/06b/20260306_N-net.pdf

気象庁HP 緊急地震速報を見聞きしたときは

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/ew/koudou/koudou.html>